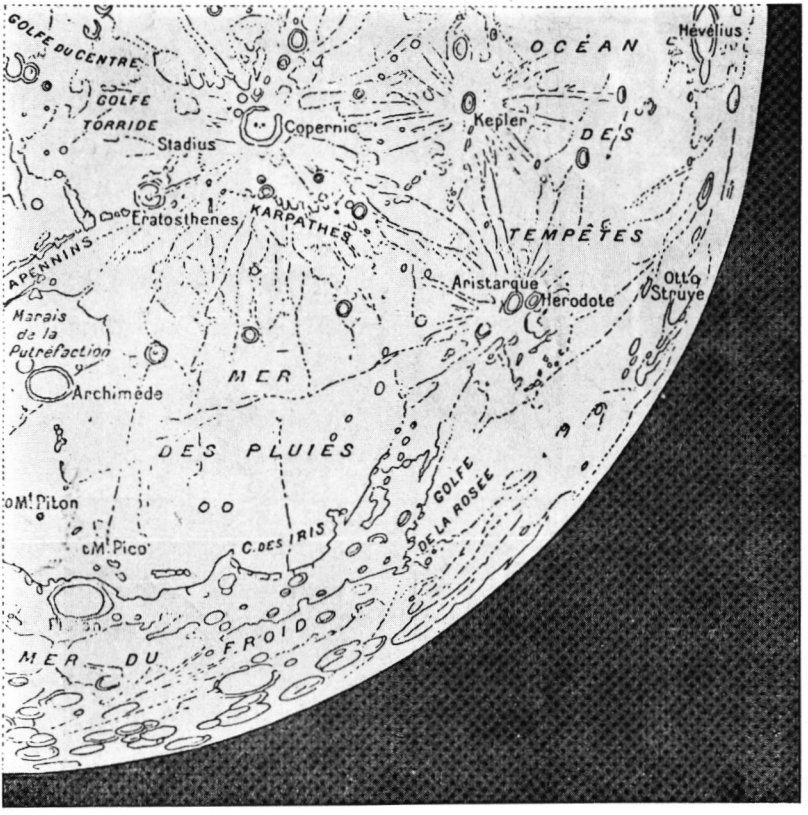
(月の東北部)

月世界への憧れ

秋の夜の天に高く輝く「月」の世界へ!!　さまざまな想像や憧憬の夢を運んで，東洋でも，西洋でも，多くの人は，歌に詩に之れをうたひ，又，殆んど總ての民族は，大昔しのウブな心に之れを『御月さま』として神格化し，崇拜したものである．あの澄みきつた光り，又，三日月や，半月形や，滿月などの，位相の急激な移り變り．尙ほ，よく觀ると，其の表面に見える明暗の模樣が，いかにも意味ありげに，吾々に向つて何事かを暗示してゐるやうに思はれる．東洋では之れを玉



（月の西北部）

兎と見，西洋では同じものを美人の姿に見た言ひ傳へは，今日も尙ほ俗間にひろく行はれてゐるが，近代の人々は，望遠鏡によつて，此の月世界を僅々數百里の距離に近よせ，山や野や海や溪の羅列する姿を，手に取る如くリヤリスチクに味ふことに成功し，今や，わざわざ旅費を使つて「月世界旅行」に出かけないでも，自由に且つ大膽にあの珍世界を活歩することが出來る時代になつた.

（前號と今月號に掲げた月面の四分ノ一圖四枚は，之れを切りぬき，つぎ合せて，大きい月面圖とすることが出來る．天文年鑑と比べ合せて，興味を味つて下さい.——編輯）